

施工前に作業形態をシミュレーション

【施工前に現地地形データを用い、作業形態や危険ポイントを事前チェック】

3Dモデルによる安全検討

現場で計測した地形データ(点群データ)より現況を再現し、現場形状に合わせて作業形態を検討する資料とします。
それぞれを組み合わせることで、工程ごとの作業状況をシミュレーションすることができます。

合図者

作業員

重機のキャビンからの視点を再現することにより、オペレータの視界を共有でき、作業形態を検討する際の判断材料となります。

ドローンにて現場の地形データを計測することで、現場をより高精度に再現できます。

3Dモデルを活用した作業形態の検討

3Dモデルを活用するため様々な角度から、細部まで現場を見ることができ、作業員、オペレータ、監督それぞれの立場が同じ目線で検討することができます。
また細部まで寸法を計測できるため、綿密な計画を検討が可能です。

合図者

作業員

3Dモデルを用いた資料にて危険ポイント周知した上で、現場にて検討会を行うことで、より具体的な危険予知活動を実施できます。

